

ICT

はじめました。

Information and Communication Technology

水田 1 枚の広さはサッカーコート
約 2.5 面分 (70m×250m) !



「さなえちゃん」
水土里ネットやまがた

～おっきい田んぼでスイスイ田植え～

ICT 機能を搭載したトラクターも今年中に購入予定。作業時間をさらに削減して、令和 9 年度以降には経営規模 100 ha を目指します！



☆ 耕作者の藤井儀徳さん ☆

「ICT」最近よく耳にしませんか？
ICTとは、パソコンやスマートフォンなどを使った情報処理や通信技術の総称で、農業の世界でも徐々にICTを活用した取組みが行われている。
尾花沢市六沢地内で行われた県の農地整備事業鶴子六沢地区では、区画が拡大した水田で、耕作者がICT機能を搭載した大型の田植機を導入した。区画の拡大も相まって「田植え時間が従来の3分の1になった」「1日約5haの田植えができる」と耕作者も大変喜んでいる。

機能①きれいな株間！

設定した株間（苗と苗の植える間隔）を保って植えることで、苗使用量を節約できる。

機能③簡単まっすぐ！

直進時にはハンドルを握らなくても自動でまっすぐ進む。長時間乗っても疲れず、乗りながら苗の補充を行うこともできる。

機能②肥料も自動！

設定した量の肥料を自動で均一に出すことができるため、肥料の節約になる。

機能④条間ズレなし！

条間（植え終わった列と植えている列の間隔）のズレを自動で修正する。初心者でも平行に植えることができるため安心。

田植機のICT機能ってなに？
田植機に搭載されたGNSS（全球測位衛星システム）アンテナが、衛星から位置情報を取得することで「4つ」のICT機能を実現する。



工事現場でもICTを活用した取り組みを行っており、鶴子六沢地区の農地整備工事の現場では、測量、施工、管理にICTを活用している。

施工前の測量にドローンを使い、1mに1点の位置情報を持つ膨大な地形データを取得する。これに三次元設計図を重ね合わせることで完成イメージが確認でき、施工時のミス防止などに役立っている。施工後もドローンを使い出来栄を管理するため、管理時間が大幅に短縮された。また、GNSSにより自動制御された重機を使った施工では、従来に比べて作業員の労力が減り、安全性も向上するなどのメリットがあった。

建設業の担い手不足を補う技術として大変有効な取組みであり、今後も県内各地の工事現場での活用が期待される。

ドローンを使う方が歩いて測量するよりずっと楽！



--- Topic! × ICT ---

県では、令和6年5月に「山形県農業農村整備ICT施工技術研究会」を設立した。県内外の関係機関や大学と連携して、ICTモデル工事の実施、農業への展開及び事業効果の検証などを行っている。



設定した高さに自動制御で土を動かすよ。安全で正確で早い！

